

No. 976

初

秋

—伊豆—

青く澄み切った空、高原のススキが微風に揺れる秋。黄色ろく色ついた稲穂が頭をたれ、案山子がそれをやさしく見守る。

野辺に咲き乱れる彼岸花が情趣をそえる。

行楽地はどこも家族づれで満員、猿や象と一緒に遊んだ子供達は大喜び、幼ない頃の郷愁にかられて竹馬に乗った大人がスッテンコロリン。静かなたたづまいをみせる山間の湖。親子が、アベックがボートをこぐ。

残照が美しいシルエットを作り出す。

海が荒れ狂う。二百二十日を過ぎ台風を訪れが多い。地引網にかかるのは「小もの、ばかりだ。それに比べて山の幸は今が最高。栗、ぶどう、みかんが、枝もたわわに稔りの秋を誇示している。

長く暑い夏は終りを告げ、日本中が秋を迎えたことを自然が教えてくれる。

日中国交回復の道

近くて遠い中国への旅出ちの朝、9月25日、羽田空港には多勢の国会議員や関係者が見送りに駆けつけた。

長かった日中国交回復の道。さる7月7日、新内閣発足以来田中首相は、日本と中国の不幸な過去に終止符をうち、日中国交正常化をめざして、ハワイ日米首脳会談、台湾への椎名特使派遣など積極的に取組んできた。野党各党も賛成の意を表しこの日、民社党佐々木書記長、公明党竹入委員長、社会党日野副委員長ら超党派で、訪中日本政府代表団を見送った。肖向前中日備忘録貿易弁事処代表の顔も見える。

田中首相、大平外相、二階堂官房長官らに乗せた日航特別機は8時10分北京に向けて飛びたった。

9月25日夜、人民大会堂で第1回首脳会談のあと催された夕食会。この席で、田中・周両首相は日中正常化交渉に臨む基本方針を発表。

不幸な歴史を反省し、過去の暗い袋小路に沈淪することなく、日中両国は今こそアジア、ひいては世界の平和と繁栄のために話し合うことが重要です。と語った田中首相。

27年もの長い歳月を経て、日本はようやく中国との新たな時代を迎え、独自の道を歩みはじめようとしている。